

## インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ： 報告数 6件（前月比 0. 3、前年同月比 -）でした。熊本、宇城地区からそれぞれ 3件の報告で、年齢別では 1歳 1件、2歳 1件、5歳 1件、7歳 1件、30～39歳 1件、60～69歳 1件でした。

## 小児科定点

(全体傾向)

報告数 2, 660件（前月比 0. 9、前年同月比 0. 7）と前月から減少しました。A群溶レン菌咽頭炎（前月比 0. 5）とヘルパンギーナ（前月比 0. 5）の減少によるものです。一方、RSウイルス感染症（前月比 48. 0）と咽頭結膜熱（前月比 1. 7）の増加が目立ちます。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症： 報告件数 48件（前月比 48. 0、前年同月比 3. 4）で、件数は少ないものの8月としては異例の多さです。昨年は9月から増加に転じ、冬季に向けた流行の兆しがみられましたが、今年はそれより早いペースですので今後の動向に注意が必要です。有明地区からの報告が目立ちます。
2. 咽頭結膜熱： 報告数 175件（前月比 1. 7、前年同月比 3. 6）で、3月から100件前後で推移していましたが、8月は一気に増加しました。菊池地区からの報告が目立ちます。
3. A群溶レン菌咽頭炎： 報告数 117件（前月比 0. 5、前年同月比 1. 0）で、7月に続きさらに減少しました。8月、9月が年間を通じ最も少ない時期で、例年並みの推移と考えられます。
4. 感染性胃腸炎： 報告数 962件（前月比 1. 0、前年同月比 1. 5）で、1月から減少傾向が続いていましたが、8月は前月とほぼ同数で横ばいの推移でした。8月、9月、10月は年間を通じ最も少ない時期で、例年並みの推移と考えられます。
5. 水痘： 報告数 133件（前月比 0. 9、前年同月比 0. 9）で、6月から漸減しています。昨年、一昨年より低い水準で推移しています。八代地区からの報告が多いようです。
6. 手足口病： 報告数 59件（前月比 0. 8、前年同月比 0. 04）と少数でした。例年みられる夏季の流行ピークを認めず、年間を通じて非常に低い件数で推移しています。
7. 伝染性紅斑： 報告数 10件（前月比 0. 8、前年同月比 0. 4）で、昨年、一昨年と比較すると今年は1月から低い件数で推移しています。
8. 突発性発しん： 報告数 205件（前月比 1. 3、前年同月比 0. 9）で、7月から微増していますが、年間を通してほぼ一定の件数で推移しており、傾向は変わらないものと思われま

9. 百日咳： 報告数 2件（前月比 2.0、前年同月比 -）でした。  
菊池、有明地区からそれぞれ1件で、年齢別には6～11ヶ月、1歳で1件でした。
10. ヘルパンギーナ： 報告数 450件（前月比 0.5、前年同月比 0.9）で、7月のピークを境に8月は半減し減少に転じました。例年並みの推移です。菊池、水俣、宇城、天草地区からの報告が多いようですが、とくに天草からの報告が突出しています。
11. 流行性耳下腺炎： 報告数 139件（前月比 0.9、前年同月比 0.5）で、6月からほぼ横ばい状態です。昨年、一昨年と比較すると低水準で推移しています。宇城、天草地区からの報告が多いようです。

## 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告数 2件（前月比 2.0、前年同月 2.0）、熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎： 報告数 175件（前月比 2.2、前年同月 2.9）と急増しています。地域別では熊本 160件、菊池 5件、八代 2件、有明 5件、宇城 1件、天草 2件の報告です。年齢別では20～49歳にピークがありますが、3歳～6歳、50～69歳にも多発しており、その他の年齢層にも感染が広がっています。

## STD定点

1. 性器クラミジア感染症： 報告数 47件（前月比 1.1、前年比 0.8）でした。前月比では僅かに増加していますが、前年比では減少しています。男女別は、女性が43件と、圧倒的に多く見られます。年齢別は、女性は15～29歳に32件と多く、男性では15～44歳に見られています。地区別は、熊本 36件と圧倒的に多く、次いで御船に4件、八代3件、山鹿2件、人吉、宇城に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：  
報告数 18件（前月比 1.6、前年比 1.2）でした。前月比、前年比とも増加しています。男女別は、女性が15件と多く、年齢別では、女性では20～64歳と幅広く、男性では20～24歳、45～49歳、50～54歳に各1件見られています。地区別は、熊本が12件と圧倒的に多く、次いで八代5件、宇城1件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数は 3件（前月比 0.4、前年比 0.4）でした。前月比、前年比とも減少しています。男女別は、女性に2件と多く見られています。年齢別は、女性では25～29歳に2件、男性では55～59歳に1件見られています。地区別は、熊本2件、御船に1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数は15件（前月比 2.5、前年比 0.9）でした。前月比では著明に、増加していますが、前年比では減少しています。男女別は、女性に8件とやや多く見られています。年齢別は、女性は1～4歳に1件、15～29歳に残り7件、男性では15～59歳に見られています。地区別は、熊本9件と多く、次いで有明3件、宇城2件、山鹿1件でした。

## 基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数 3件（前月比 1. 5、前年同月+3）でした。やや多くみられます。人吉2件、熊本1件です。20～29歳2件、40～44歳 1件です。小児なしです。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数 4件（前月比 1. 0、前年同月比 4. 0）でした。1～4歳1件、20～24歳1件、35～39歳1件、40～44歳1件です。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数26件（前月比 1. 9、前年同月比 2. 4）でした。流行した昨年よりさらに多い発生傾向が続いています。
4. クラミジア肺炎： 報告数 1件（前月比 0. 5、前年同月+1）でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：  
報告数 56件（前月比 1. 2、前年同月比 0. 7）でした。38件（68%）が70歳以上でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：  
報告数 2件（前月比 0. 3、前年同月+2）でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数 0件（前月+0、前年同月-1）でした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症：  
報告数 0件（前月+0、前年同月+0）でした。患者発生は長期なしです。

## 届け出対象感染症

- 1類感染症： 報告はありませんでした。
- 2類感染症： 結核：43件
- 3類感染症： 細菌性赤痢：1件  
腸管出血性大腸菌感染症：7件
- 4類感染症： 日本紅斑熱：4件  
レジオネラ症：2件
- 5類感染症（全数把握）： 髄膜炎菌性髄膜炎：1件  
梅毒：1件  
バンコマイシン耐性腸球菌感染症：1件  
風しん：1件